

第2回教育委員会所管社会教育施設指定管理者選定委員会の結果

1. 日 時：令和7年9月25日（木）13:30～15:30

2. 場 所：岩手県民会館4階 第4会議室

3. 出席者：選定委員 浅 沼 道 成

新 山 正 智

林 謙 志

森 川 静 子

山 下 泰 幸

事務局 総括課長 藤 井 茂 樹

生涯学習担当課長 平 野 朋 子

主任主査 村 松 純 子

主査 小野寺 英 徳

主事 小野寺 大 地

岩手県立野外活動センター

所長 高 橋 弘 寿

申請者

特定非営利活動法人国際自然大学校

4. 選定の経過

令和7年7月25日 第1回教育委員会所管社会教育施設指定管理者選定委員会
(募集要項決定)

令和7年7月30日 公募実施（公募期間 7/30～9/8）

令和7年9月25日 第2回教育委員会所管社会教育施設指定管理者選定委員会
(書類審査、面接審査)

5. 会議（審査）結果

(1) 岩手県立県南青少年の家 申請1者 — 書類審査合格者なし

(2) 岩手県立陸中海岸青少年の家 申請1者 — 書類審査合格者なし

(3) 岩手県立県北青少年の家 申請1者 — 書類審査合格者なし

上記3施設とも、申請のあった収支計画において申請金額が上限額を上回ったことから、仕様の見直し等を行い上限額を再設定のうえ、再度公募を実施する。

(4) 岩手県立野外活動センター

(500点満点)

選定の可否	団 体 名	得 点
可	特定非営利活動法人国際自然大学校	419

(講評要旨)

- ・全国12か所の運営実績と豊富なノウハウを持ち、職員研修や組織的運営においても高い信頼性がある。
- ・自然体験を理念に掲げ、魅力的なプログラムを展開し、全国規模のネットワークと多様な野外活動指導の経験が強みとしている。
- ・当該団体は岩手県内への新規参入でもあることから、施設本来の目的を果たせるよう、県や地元との連携を深め、岩手らしさを活かした地域に根差した活動内容となるよう期待する。

6 会議録

【以下、プレゼン後の質疑】

(委員)

野外活動センターの特徴として、スポーツ施設が他の類似施設に比べて多いが、提案では青少年の大会を開くということはあったが、それ以外に、施設自体をどのように活用されるお考えか。

(申請者)

確かにこれまでの受託施設では、野外活動に特化したような施設が多いが、グラウンドや体育館は大体どこの施設にもあり、その中で、スポーツ団体にたくさん利用していただいている。

こちらの施設も、よりスポーツ施設が充実しているので、そこに来るスポーツ団体の方に対して、例えば、人間関係づくりのプログラムとか、野外炊事で交流をしていただくとか、そういうプログラムが提供できればもっともっと、スポーツ施設を使っただけで人が増えるのではないかと考えている。

スポーツ自体のアドバイスとかそういったものは難しいかもしれないが、宿泊に関するところとか、人間関係をより深められるようなものを新たな提案として実施できると考えている。

(委員)

現在 12 施設を受託していて、今のところはすべて関東圏。岩手県へ初めての参入となるが、その辺りの期待と不安、あと、関東の事業所でありながら、この施設を運営していくにあたっての強みがあればお聞かせ願う。

(申請者)

関東圏以外では、兵庫県の明石地方の施設も受託している。本部のある東京からは距離的に離れているが、基本的には現地の配置職員がしっかりと運営をしている。また、職員が施設ごとに孤立している状況ではなく、各施設職員の合同研修の実施や、情報交換を定期的に行っているので、距離的な問題はそこまでないと考えている。

今回の岩手県への参入については、全国的に携われる施設をいつも探しており、直営からの切り換えの方が取り組みやすい部分があるため、そういったところを探していて、今回タイミングよく見つけられた。野外活動ができる施設として、こちらの施設であれば私たちのノウハウがより生かせるだろうと考えている。

また、東京に本社があり全国に支店を有するよう会社で、東北で研修したいというニーズのある会社の企業研修を受託することもあり、そうした機会に野外活動センターを研修場所として提案できると思っており、そういう意味では東京にある団体としてのメリットもあると思っている。

(委員)

岩手県は東北の中では比較的交通の便はいいと思っているので、岩手県自体がもっとその点をアピールして関東エリアに営業していけたらいいなと思っていたところ。

(申請者)

震災での被災施設（地域）というところで、関東の方々にも知ってもらえる機会として施設を使ってそういったものも学べる点も集客に繋がると考えている。

(委員)

職員の地元採用についてはどうか。

(申請者)

所長や、事業主任にあたるようなメンバーについては、私どもの他施設での勤務者を入れたいと考えている。今回提案している内容については私たちの実績の中から出ているものなので、それを実行できる者ということでいくと、異動で、他施設での勤務実績のある職員の方が実現しやすいというふうに考えている。

それ以外の職員については、地元採用に向け募集もかけるし、同じように異動で行く可能性もある。

(委員)

様々なプログラムの提案もあり新鮮に感じたが、提案内容は全て受託施設で実施されているものか。

(申請者)

いずれもこれまで他施設で実施している内容である。

(委員)

野外活動センターで実施しているプログラムで、そちらで実施していない新しいプログラムはあったか。

(申請者)

(アワビの) 貝殻を使ったマグネットづくりは初めて見たもので魅力的と感じた。そのあたりも、事前の引き継ぎの中での研修でしっかりと覚えさせていただければ対応可能と思う。

(委員)

校長会に出向いてPRするなど、既に他施設でも実施されているか。

(申請者)

はい。訪問のお願いはするが、日程の調整等でその機会を得られないというのも現実としてある。

(委員)

1年に1000万円ずつエアコン設置経費を計上しているが、1年ごとに1,000万円を使うイメージか。

(申請者)

現時点で現地をきちんと調査をして、どのくらいかかるから3年間で実行できるかというところまでは調べはついていないが、枠としてはその範囲であれば確保できるので、その範囲の中でできることをやっていきたい。

野外活動センターの研修利用や、夏場の集客にあたって、宿泊室や、活動場所である「創作室」「研修室」を十分活用できないのはすごくもったいないと思っており、その整備ができれば雨天時の活動場所としても使用できるので、できればそこには設置したいと考えている。

(委員)

活動計画についていろいろな提案をしていただいております、子供の頃からの体験活動の充実は子供の成長にとって重要なので、地域との関わりも大切にしながら取り組んでいただきたい。

(委員)

エアコン設置費の計上について、非常に画期的な提案だと思うが、限られた料金の中ではほかの経費をどう圧縮できるかという中で、施設の最大の課題でもあるエアコン設置に充てるということだが、このような提案を他の施設でもされたことがあるか。

(申請者)

事例としては、提案時にそこまで提案をしたことはないが、こうした施設は老朽化している場所がほとんどで、管轄の行政の方に予算、予算立てをお願いしてもなかなかつかないのが現実で、何とかやりくりをして、1000万円近くの間接費をかけて、屋根の雨漏り修繕をした例はある。共同事業体を組んでいる会社と相談をして、ここをやらないと利用者が増やせないということで実施した経緯はある。

指定管理料の中では、県の予算措置を待っていてはできないこともある。

今回は、エアコン設置が施設最大の課題だと思ったので、そこを予算として提案をさせていただいた。

(委員)

指定管理者制度が発足してから、当初はあまり物価が上がらなかったが、ここに来て、物価上昇が著しい状況になってきて、おそらく指定管理者制度の抜本的なところから、こうした施設管理についての仕組みを見直さなくてはいけない時期に来ていると思っている。その中で提案団体さんの方からこうしたご提案があるということは、非常に大きなことだと感じている。前例がないことかと思うので、この後は県と取扱いや仕組みを話し合われると思うが、感想になるが、非常に有意義な提案と感じており、ぜひ、結果が出ればよいと思う。

(委員)

上限額の中でこうした提案をされてきたというところで、どこかに圧縮がかかるのではないと思うが、例えば一般管理費など、今回の積算で特に圧縮した経費はあるか。

(申請者)

特段圧縮はしておらず通常の算出方法での積算結果。今後、受託施設数が増えれば、本部人員の増員など本部費が少し高くなり、按分する金額も大きくなるという可能性はあるが、現時点での算出では、特に無理な積算ではない。

(事務局)

新しいプログラムの導入にかかる費用について

(申請者)

- ・E ボート：200 万円（ゴムボート等購入費用、試行期間はレンタルを想定）
- ・アドベンチャーツアー：150 万円（基礎工事不要なタイプもあり、県と協議のうえ検討・整備していく想定）

(事務局)

主催事業収入の考え方は

(申請者)

過去の実費ベースの料金設定での積算（実費相当とし、利益は見込んでいない）

(事務局)

施設管理職員の配置について

(申請者)

施設常駐はなしとする予定。定期巡回で施設の状況を把握し、点検日や、設備の不具合があったときには、巡回担当職員に来ていただいて、再委託をする会社さんとの折衝はその方にやっていただく予定としている。

(事務局)

バス運行、総務職員の業務について

(申請者)

バス運行は、外部委託を予定。全国展開している他施設での委託業者で、当該施設の運行体制に対応可能と確認している。総務職員業務は、会計・庶務業務を一本化し、次長が補佐する体制とする予定。

(委員)

東京方面からの研修誘致について話があったが、他施設でも外部エリアからの受け入れ実績はあるか。

(申請者)

東京から子供たちを集めて、兵庫の受託施設まで遠征した例はある。
全国に受託施設があつて、関西でも展開している団体だと認識していただけるので、
同じように、東北でも研修ができる事業者だというのがわかれば選択肢も増える。
施設の職員だけでは対応できない研修も、本部から人が行ったりすればできるものもあり、そういった対応もできると思う。

(委員)

東北地区へは初参入となるが、寒さなどは問題ないか。

(申請者)

職員の中に、東北出身の者もおり、その者とも話をしながら提案書の作成や施設視察もしていて、そうした職員の意見も聞いて一緒にやっていきたいと思っている。

(委員)

施設の特性とは違うとは思いますが、今後は、地域に根差した人材の育成の観点から、起業関連のプログラムなど県内の人口増加につながる事業の実施にも期待している。

(申請者)

私たちの団体としてのミッションの中にも地域活性化も入っている部分であり、そういった意味でも、施設がある場所の地域にちゃんと溶け込むことも大切にしており、もっと大きな行政単位での貢献というところもしていきたいと考えている。

【候補者選定について協議】

採点、協議の結果、特定非営利活動法人国際自然大学校を指定管理者の候補者として適当と認めると決定した。

以上